

中学生絵画コンクール受賞者発表

このたび本校主催で開催いたしました「中学生絵画コンクール」に、多くのご応募をいただき誠にありがとうございました。今回は「未来をつくれ」というテーマの下、たくさんの瑞々しい感性溢れる作品が集まりました。ご応募感謝いたします。

厳正なる審査の結果、受賞された作品を発表いたします。

受賞者の皆さん、おめでとうございます。

10 月 11 日（土）13 時より本校 2 階ギャラリーにて表彰式を行います。

受賞された方々は 12 時 55 分に 2 階ギャラリーにお集まりください。（作品は表彰式の後返却いたします。）

展覧会について

会期 10 月 4 日（土）～10 月 11 日（土）＜10 月 5 日（日）は休み＞ ※会期が一部変更になりました。
 一般公開

 10 月 4 日（土）9：00～15：00 （中学生デッサン教室日）
 ＜10 月 6 日（月）～10 日（金） （本校関係者のみで非公開）＞
 10 月 11 日（土）9：30～13：00 （学校公開日）

表彰式 10 月 11 日（土） 13：00～ 本校ギャラリー

場所 本校 2 階ギャラリー

連絡事項 生徒昇降口 2 階へ上がって受付の担当まで声をかけてください。

 スリッパと靴袋をご持参ください。

※すべての出品作品を展示しています。作品は表彰式後、その場で返却します。

 出品した人は作品を入れる袋をご用意ください。来れなかった方は、後日郵送で返却します。

最優秀賞

「同化」



制作意図

私がこの絵を制作した理由は2つあります。1つ目は、私は昆虫が好きで、絵にするのであれば見た目が美しい蝶を描きたいと思ったからです。アクリル絵の具を使用した絵の中でも私の作品は雰囲気ふわふわしている所が見どころです。2つ目は私は「未来は誰にも想像できないもの」だと感じたので背景の街と同化しているような半透明な蝶を描きました。また私が描いた蝶は創作したものなので誰にも想像できないようなデザインになっています。

講評

透けるような淡い紫が非常に美しい。背景もメインモチーフも同等に全てが溶け込む装飾的な画面作りに目を惹かれました。透明な蝶の身体は全てを映し出す鏡のようなもの。これからの未来に向けて様々なものを吸収し自分の身体に取り込み表現していく作者の意志を感じます。

優秀賞

「口からあふれる未来」



制作意図

この絵の口は私自身です。食べることや作ることが好きなので、そこから未来を表現しました。口からあふれる食べ物や道は「好き」と「日常」、同時に人間の欲や消費を象徴しています。動物や宇宙・自然・人工物を混ぜることで、現代社会の混乱や欲望も描きました。

講評

画面の構成と細密な描写が魅力的です。まず人物の口元に視線が向き、流れ出る様々なモチーフを一つ一つじっくり見たくなります。ただ細密なだけではなく、ラーメンに宇宙人、きのこに信号機等、普段組み合わせられないものが混ざり合うことで、ユーモアと混沌を感じます。見た者が「どういうことなんだろう？」と思わず考えてしまうような構成を評価しました。

「地球の未来」



制作意図

地球の数100年、数1000年たって時代が進化し、人類は便利になりテクノロジーは進むが地球自体は苦しんでいるのではないだろうか。

講評

全体を覆う淡いトーンのハーモニー、物の境界が溶け合う滲んだ空間表現、人とアンドロイドが手を取り合って街を眺める姿は未来の希望の光を灯しているようであり、ヒューマニティー溢れる物語性を感じさせます。豊かな抒情的な表現に魅力を感じました。

「生み出すことへの葛藤」



制作意図

私にとって未来をつくるということとは、環境問題や少子高齢化などの課題をなくしていくことだと思いました。この作品は、未来をつくっていく人の不安や葛藤を表現していて、見る人に今の状態で自分の理想とする未来が、本当に実現できるのかを作品を通して考えて欲しいです。

講評

私達が当たり前にあるものと考えている未来が、私達が現代の危機的状況に対処しないことで、存在が揺らいで消えそうになっています。地球のような色をした少女のてのひらは、山積している課題を受け止め切れるのでしょうか。鋭い切り口と繊細な鉛筆表現が光る、優れた作品です。

入選

「未来扉のさき」



「焦りの壁と希望」



「紙風船」



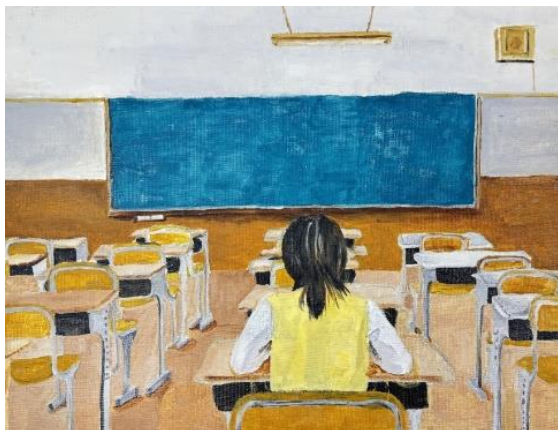
「make」



「海に浮かぶ未来都市」



「私の未来」



「観測」

